

# Q 20

## 凍結融解胚移植における自然周期とホルモン調整周期はどう違うのでしょうか

A

凍結融解胚移植における治療法として、自然周期とホルモン調整周期があります。世界中の研究結果をまとめた報告により、凍結融解胚移植における自然周期とホルモン調整周期の出生率・多胎率・流産率を比較したところ、いずれにおいても明らかな差が認めませんでした。一方、2014年の日本における不妊治療の成績に関する報告では、妊娠率・出生率・流産率のいずれにおいても、自然周期の方がホルモン調整周期よりわずかに成績が良好と報告されました。

### 自然周期

自然周期では黄体化ホルモンの分泌増加(LHサージ)の後の自然な排卵に合わせて、凍結胚を融解して胚移植を行います。自然周期のメリットは、内服や注射など薬剤の使用が少なく、副作用や費用が軽減できる点です。

### ホルモン調整周期

ホルモン調整周期では、エストロゲン製剤やプロゲステロン製剤を使用して人工的に子宮内膜の状態を変化させて胚を受容できる状態を作り、適切なタイミングで凍結胚を融解して胚移植を行います。ホルモン調整周期のメリットは、胚移植を行うスケジュールが調整しやすい、受診回数を軽減できる点などです。

#### 【参照生殖医療ガイドライン CQ】

CQ27：凍結融解胚移植におけるホルモン調整周期は、自然周期に比べ優れているか？ 凍結融解胚移植におけるホルモン調整周期は、自然周期と比較して有効か？